

## 経営バイタル の強化書 KEIEI VITAL

### ファミリーガバナンス・ガイダンスの チェックリストを活用しましょう!

# ファミリーガバナンス・ガイダンス



チェックリストや具体的な取り組み事例を参考にファミリーガバナンスを整備しましょう!

## 1 ファミリーガバナンス・ガイダンスの特長と必要性

経済産業省は、6月5日、「ファミリーガバナンス・ガイダンス」をとりまとめ、公表しました\*。

日本の全企業のうち、9割以上がファミリービジネスであると言われており、ファミリービジネスは、国内外での事業・投資を拡大することで日本経済の成長に大きく貢献しています(【図1】)。

ファミリービジネスは、以下の①~④の特長・強みを有していると言われています。

### ① 長期的な視点：

一般的に、数十年に渡り経営者であり続けるとともに、ファミリー内で経営権を承継することが多いことから、長期的な視点での経営を行うことができる。

### ② 迅速な意思決定：

一般的にファミリービジネスの経営者は、大株主でもあり、さらにファミリーの意思決定を取りまとめる立場にあることも多いため、ファミリー内、社内においてリーダーシップを発揮しやすく、意思決定を迅速に行うことができる。

### ③ 日本経済・地域経済の牽引役：

ファミリービジネスは、全国各地において、地域の雇用を生み出

すとともに、取引関係の構築・企業間連携による市場活性化と波及効果、事業投資等を通じ、地域経済、ひいては日本経済を牽引する重要な存在となっている。

### ④ 地域社会への貢献：

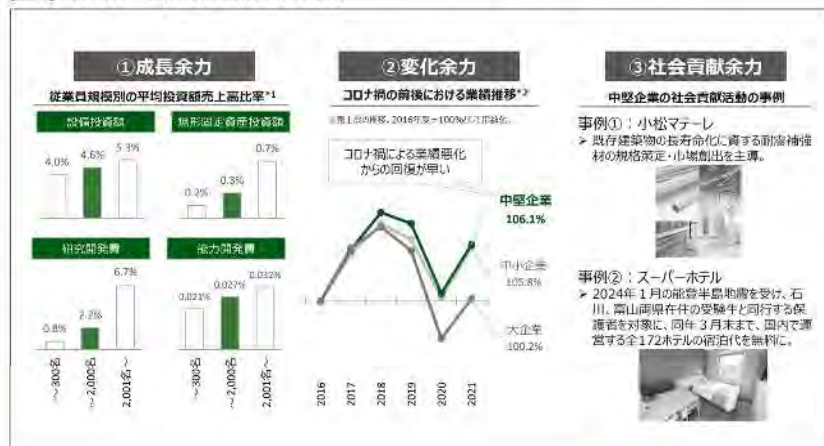
ファミリービジネスは、地域行事やまちづくり事業への資金提供、世代を超えたコミュニティの維持等において重要な役割を果たしており、それがファミリービジネスへの信用や人的ネットワークの構築につながっている。

ファミリービジネスでは、このような特長・強みがある反面、経営者の独善的行動や成長意欲の減衰、後継者の経営能力不足といった、企業価値を毀損しかねない構造的なリスクを内包しています。

ファミリービジネスは、「家族」、「所有」、「経営」の3つの要素で特徴付けられ、創業期には、家族・所有・経営が一体化しているが、企業が成長する過程で、家族・所有・経営が徐々に分離し、関係性が複雑化するため、ガバナンス上のリスクが顕在化しやすくなるとされています(【図2】)。

また、日本では、諸外国のファミリービジネスと比べて、ファミリーのパーパス(目的・存在意義)・価値観を明文化し、定期的かつ意識

【図1】ファミリービジネスのポテンシャル



【図2】ファミリービジネスに関するモデル

